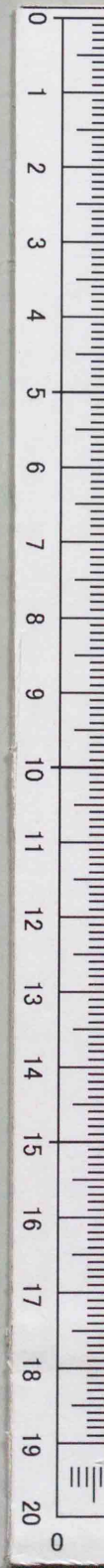
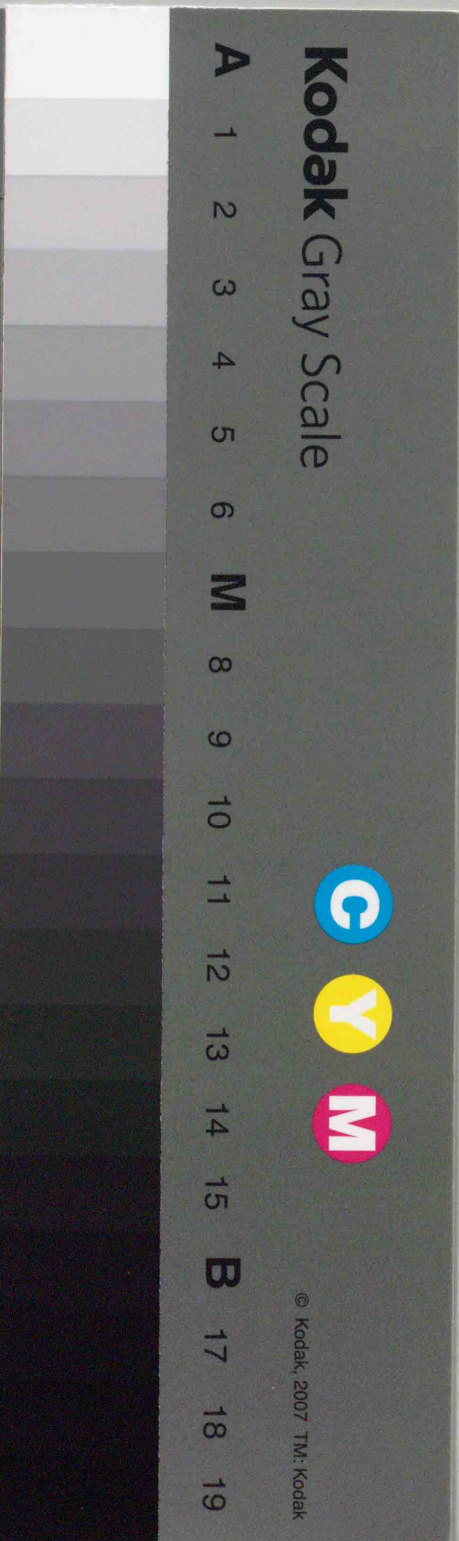
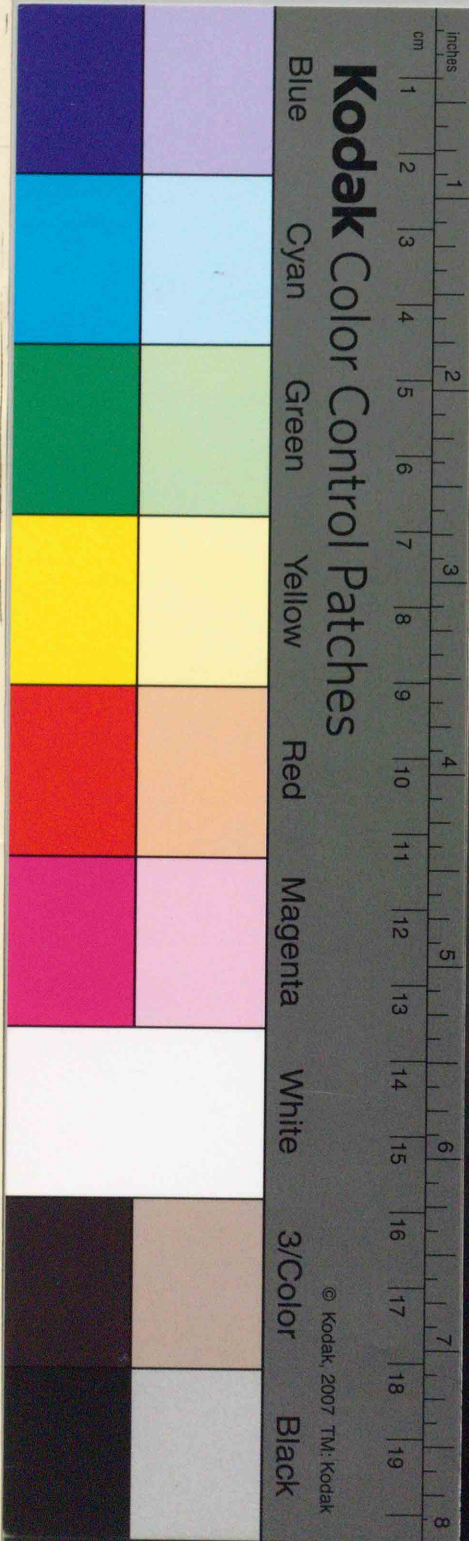


41053

教科書文庫

4
760
42-1937
01304 49380



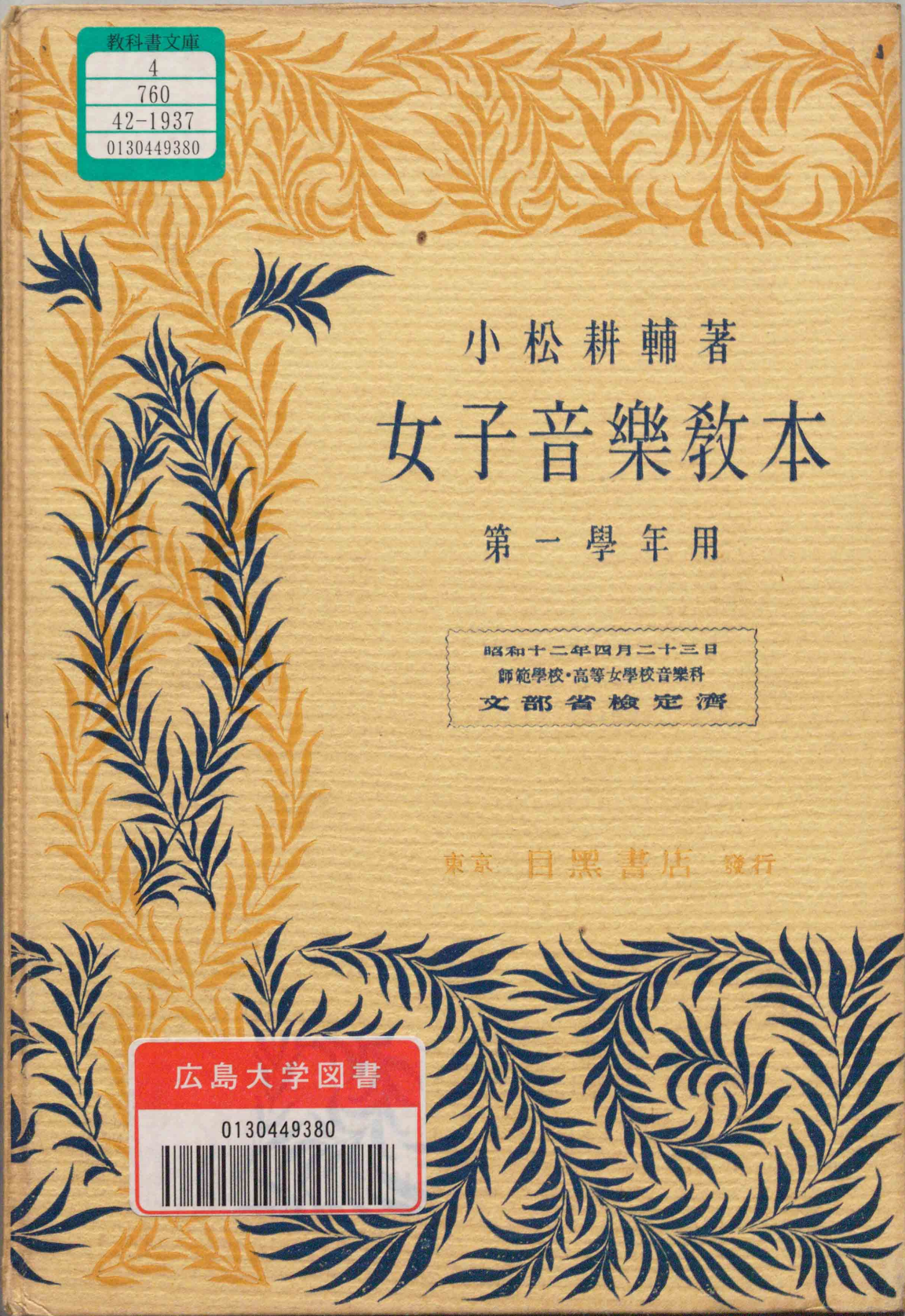
教科書文庫
4
760
42-1937
0130449380

小松耕輔著
女子音樂教本
第一學年用

昭和十二年四月二十三日
師範學校・高等女學校音樂科
文部省檢定済

東京 目黒書店 發行

広島大学図書
0130449380



中央図書館

教科書文庫

4

760

42-1937

0130449380

広島大学図書

0130449380





小松耕輔著

女子音樂教本

第一學年用

広島大学図書

0130449380



東京

目黒書店

緒 言

- 一、本書は高等女學校女子師範學校音樂科の教科用に充てんがために編纂したものである。
- 二、本書に集録した樂曲は著者署名以外のものは皆歐米各國の作曲者によつて作られたものである。
- 三、歌曲は教授の都合上幾分これを加除し他に文部省檢定済又は認定済の曲を採録する場合を慮り、卷末に五線紙を添へて其の用に供した。
- 四、樂典は其の初歩を授け音程練習は階梯的に編纂して卷末に添へた。
- 五、樂式及び音樂史は音樂を正しく理解する上に於て裨益するところ多きを以てこれを卷末に附記した。

昭和十一年六月

著 者

目 次

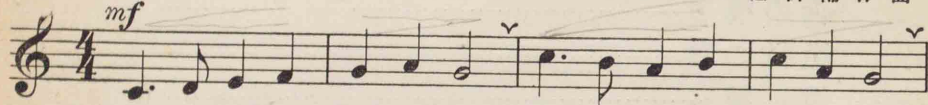
わが春	4
森の囀り	6
漁村の朝	8
競 技	10
五月晴	12
わが選手	14
芝生の堇	16
牧 童	18
小 犬	20
汽車の旅	22
蟲なく野邊	24
星	26
落ちゆく日	28
豊太閤	30
秋晴の野山	32
秋の山	34
年の暮	36
冬の夜	38
探 梅	40
兎がり	42
橇遊び	44
氷すべり	46

わが春

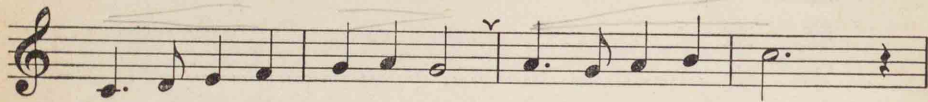
Crescend. decrescend.

どかに

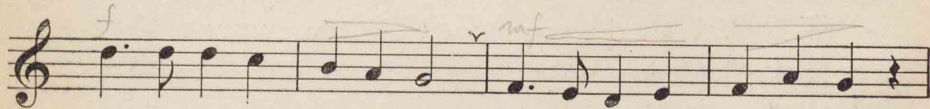
小松耕輔作曲



1. ミワタス カギリ ノヤマヲ コメテ
2. よろこび あふれ みるものすべて



カスミゾ カカル ケフノハル
うたふに にたり けふのはる



モノミナ エミテ モノミナ ヲドル
ふみよむ まどに ゆたけき ひかげ



タノシキ ハルヨ ワガハルヨ
たのしきはるよ わがはるよ

わが春

葛原 菡

一 見わたすかぎり 野山をこめて、

霞ぞかゝる 今日けふの春。

物みな 笑みて

物みな をどる

楽しき春よ 我が春よ。

二 よろこびあふれ 見る物すべて、

歌ふに似たり 今日けふの春。

文よむ 窓に

豊とよけき 日かげ

楽しき春よ 我が春よ。

森の囀り

楽しく *mf* 小松耕輔作曲

1. タ カ ク ヒ ク ク サ ヘ ヅ リ
 2. あ さ ひ う け て さ ヘ づ り

ト ホ ク チ カ ク サ ヘ ヅ ル
 ゆ ふ ひ あ び て さ ヘ づ る

モ リ ニ ミ ツ ル コ エ ゴ エ
 は る の な が き ひ と ひ を

ト リ ノ ウ タ ゾ オ モ シ ロ
 も り に う た ふ こ と り よ

一 高く低くさへづり、
 遠く近くさへづる。
 森にみつる聲々、
 鳥のうたぞおもしろ。

二 朝日うけてさへづり、
 夕日あびてさへづる。
 春の長きひと日を、
 森にうたふ小鳥よ。

森の囀り

葛原

幽

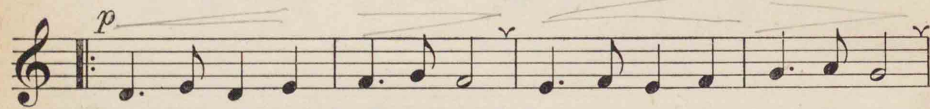
漁村の朝



1. ア サ モ ヤ ハ - ハ レ ワ タ リ -
2. あ さ も や は - は れ わ た り -



ウ ミ ホ ガ ラ ホ ガ ラ
う み ほ が ら ほ が ら



ミ サ キ ヲ メ グ リ ア サ ヒ ヲ ア ビ テ
エ モ ノ ヲ ツ ミ テ サ キ ヲ バ キ ソ ヒ
な ぎ さ に つ ど ひ あ さ ひ を あ び て
え も の を い る る あ ま た の か ご を



ヨ ヅ リ ノ ヲ ブ ネ ノ カ ヘ ル
エ ガ ホ ヲ ナ ラ ベ テ カ ヘ ル
まつまも た の し き こ ら よ
て に て に 糸 が ほ の こ ら よ

二

海朝 海朝
手獲待渚 ほ 霽 笑 獲 夜 岬 海朝
に物つに かがは 顔 物 釣 を ほ 霽
手を入も たら 霽 を を の 巡ら 霧
に笑る 樂ど ほか たり なら 積り 朝
顔、し 朝 朝 べ みて 舟の 日
の 敷き 日 べ 先 小の か
子多子 を べ をか 舟の 浴
等 籠よ 浴 べ へる 浴 び
よ。 を び て、

漁村の朝

葛原 幽

五月晴



1. サ ツ キー ノ カ ゼー フー ケ バ エ
2. さ つ きー の か ゼー ふー け ば み



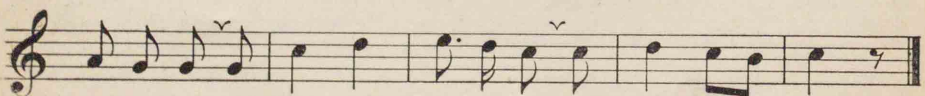
ダーモーハーマーノビテノヤマー
そーらーたーかーくなくひばりー



ノクサーモキモサカーエーサーカーエツ
のなめーらーけきうたーのーなーがーれき



ツ ミチタルヨロコビアフルルホ
て むぎふのこひばりののすにめ



ホエミサツキバレノタノシーヤ
ざめてさつきばれのたのしーや

二

五

五月の
晴の
樂し
しや。

雲雀の
御空の
高く
啼く

五月の
月晴る
の、
樂し
しや。

歌の
流れ
來て、

一

五

五月の
枝葉の
風吹
けば、

野山の
草も
木も
榮え
榮え
つゝ、

五月晴

葛原 幽

わが選手

愉快に
mf

1. ハレタル ソラニ ヒハモエテ
2. こころもをどる がくのねに

p

アヲバノカゲ カゼカヲル
ゆらめくはたはなのごと

mf

イザワガ センシュ トキハキヌ
いざわがせんしゆふるひたち

mf

ヒゴロノウデヲバウチフルヒ
ゆづるをはなれしやのごとく

f

ムラガル テキーヲバケチラシーテ
ゴールをめがけてとくはしーれ

f

ホマレノハタカチトレヨ
かがやくはえきみをよぶ

一
晴れたるそらに
青葉のかけ
いざわが選手
ひごろの腕をば
むらがる敵をば
ほまれの旗
心もをどる
ゆらめく旗
いざわが選手
ゆづるをはなれし
ゴールをめがけて
かやく榮
君をよぶ。

二
花の音に、
ふるひたち、
矢のごとく、
かちとれよ。
時は来ぬ、
うちふるひ、
けちらして、
風かをる。
日はもえて、

わが選手

麻上俊延

芝生の堇

優美に *mf*

1. シ バ フ ノ ス ミ レ ナ ツ カ
2. し ば ふ の す み れ な つ か

シ ア ア ナ ツ カ シ ム
し あ あ な つ か し ゆ

ラ サ キ フ カ ク ツ ユ ニ ソ ミ テ
ふ べ の ほ し の ほ ほ ゑ む ま で

ニ ホ フ サ マ ノ ユ カ シ ヤ
い ざ や こ こ に あ そ ば ん

芝生の堇

小松耕輔

一 芝生のすみれ、 なつかし、

ああ なつかし。

紫ふかく、 つゆにそみて、

にほふさまのゆかしや。

二 芝生のすみれ、 なつかし、

ああ なつかし。

ゆふべの星の、 ほほゑむまで、

いざやここに遊ばん。

牧 童



1. イ リ ヒ ノ カーゲ ア カ ク サー シ
2. す ず し き ふーえ の に ひ びー き



ノ モ セ ハ ハーヤ ク レ ソ メー ヌ
み よ や う しーは あ つ ま りー ぬ



サー ラ バ イ ヘーニ ワ レ モ ユ カ ン
ゆ ふ ぎ り ふ かーき ま き ば を こ え



シ タ シ キ トーモ コ ヨ ヤ イー ザ
い へ ち さ しーて か へ り ゆー く

牧 童

小 松 耕 輔

一 入 日 の か げ、 赤 く さ し、

野 も せ は は や、 く れ そ め ぬ。

さ ら ば 家 に、 わ れ も ゆ か ん、

親 し き 友、 來 よ や い ざ。

二 す ず し き 笛、 野 に ひ び き、

見 よ や 牛 は、 あ つ ま り ぬ。

夕 霧 ふ か き、 牧 場 を こ え、

家 路 さ し て、 歸 り ゆ く。

小 犬

ハ→ト
ハ←ト
Moderato
mf

1. カー キネノソ ト ニ ミ ヅ カ ラ イー デ
2. おー の れ の こ ゑ の こ だ ま を きー き

ミー チ ユ ク ヒ トー ラ ハー ジ メ テ ミ テ
いー づ こ に ほ かー の いー ぬ や あ る と

ア ヤ シ ミ ホ ユー ル ケ タ タ マ シ サ
し き り に ほ ゆー る け た た ま し さ

p

ヤー ヨ イー ス コー イー ヌ アー ヤ シ ム ナ ヨ
やー よ いー ぬ こー いー ぬ おー の が こ ゑ ぞ

f

ヨ ブ コ エ キ キ テ ハ イ ソ ギ カ ヘ ル
よ ぶ こ ゑ き き て は い そ き か へ る

mf

ヲ ヲ フ リ ヲ ヲ フ リ カ ヘ ル コ イ ヌ
を を ふ り を を ふ り か へ る こ い ぬ

	二		一
歸尾急呼	しいお歸尾急呼	あ道垣	
るをぎぶ	きづのるをぎぶ	やゆ根	
小振歸聲	おやりこれ小振歸聲	あやしみの外	小
犬。りる。	きが、吠 聲	きし、吠	犬
	尾 て 犬ゆ 他の	尾 ききむ犬ゆ	
を は 聲	は 聲 る の	を て は	
振 り	ぞ。小 犬 け た た ま し さ。	は じ め て 見 て、	
		犬、 け た た ま し さ。	
			葛
			原
			幽

汽車の旅



1. ヤ マ ユキ カ ハ サリ サ ト ハ キ タ ル
 2. は し り て い こ ひ て ま た も す す む
 3. キ ノ フ ハ マ ツ シ マ ケ フ ハ ウ ヘ ノ



ト ビ ユーク モー リ イ ヘ ヒ ト モ ウ マ モ
 す す み て た ゆ ま ず つ と め は た す
 カ チ ニー テ ター ド リ シ ム カ シ オ モ ヘ



ユ クワイ ユ クワイ カ ハ ル ケ シ キ
 ゆ くわい ゆ くわい き し や の た び ぢ
 ユ クワイ ユ クワイ キ シャ ノ タ ビ ゼ

汽車の旅

小松耕輔

一 山行き河去り里は来る、

飛びゆく森、家、人も馬も、
 愉快愉快變る景色。

二 走りていこひて又も進む、

すすみてたゆまず勤め果たす、
 愉快愉快汽車の旅路。

三 昨日は松島けふは上野

徒歩にて辿りし昔おもへ、
 愉快愉快汽車の旅路。

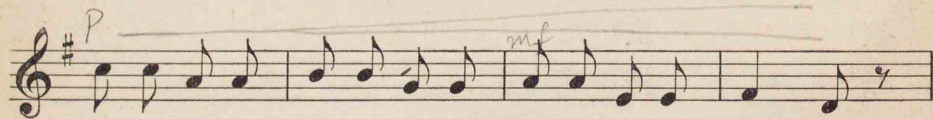
蟲なく野邊



1. リン リン リン ツキテル ノ ニ
 2. りん りん りん きそひて な く



リン リン リン ムシハナ ク
 りん りん りん むしのこゑ



ハナサキ ミダレテ ツキテル ノ ニ
 つゆおく はかげに きそひて な く



リン リン リン ムシハナ ク
 りん りん りん むしのこゑ

り ん、	露 お く	り ん、	二 り ん、	り ん、	花 咲 き	り ん、	一 り ん、
り ん、	葉 か げ	り ん、	り ん、	り ん、	み だ れ て	り ん、	り ん、
り ん、	に	り ん、	り ん、	り ん、	り ん、	り ん、	り ん、
蟲 の こ ゑ	き そ ひ て な く、	む し の こ ゑ	き そ ひ て な く、	蟲 は な く。	月 て る 野 に、	蟲 は な く。	月 て る 野 に、

蟲なく野邊

小松耕輔

星

Moderato
dolce.
p

1. ユフーベソラニキララキララ
2. くらきそらにあをくあかく

p

スミテカガヤクキヨラカサ
ひかりさえゆくうるはしさ

mf *rall.*

アアアキノホシヨ
ああとほきほしよ

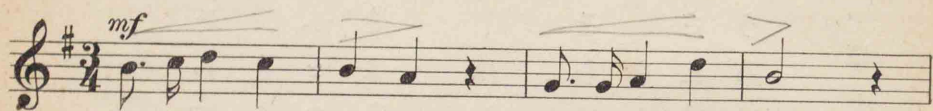
星

	二		一
あゝ	くらき	あゝ	ゆふべ
とほき	あをく	あきの	きらら
	さえゆく	ほしよ	そらに
ほしよ	うるはしさ		きよらかさ
			かゞやく
			きらら
			そらに

麻上俊延

落ちゆく日

Andante



1.	ヒ	ト	ハ	カ	ヘ	リ	ト	リ	ハ	ユ	キ
2.	こ	が	ね	の	く	も	あ	か	あ	か	と
3.	ヨ	ノ	モ	ノ	ミ	ナ	オ	ト	モ	ナ	ク



ノ	モ	セ	ハ	シ	ヅ	カ	ニ	ク	レ	ユ	ク
み	よ	ひ	は	に	し	へ	と	お	ち	ゆ	く
ミ	ヨ	ヒ	ハ	シ	ヅ	カ	ニ	ク	レ	ユ	ク

落ちゆく日

一人は歸り鳥はゆき、

野もせは静にくれゆく。

二 黄金オウゴンの雲あかあかと、

見よ日は西へと落ちゆく。

三世のものみな音もなく、

見よ日は静にくれゆく。

小
松
耕
輔

豊太閤

Allegretto
快活に
mf

1. ア ラ レ タ バ シ ル フー ユ ノ ヨー ハー ニ
2. く が ぢ ら な ば ら う づ む る は た て

ザ ウ リ イ ダ キ テ ヌー シ ノ カーヘー リ
こ れ ぞ な だ た る せい かん の いーくー さ

f

ホ カ ゲ ニ ソ ム キー テ マ テ ル シー モー ベー
と つ く に ぐ に まー で ひ び く そー のー なー

mf

タ レ カ ハ シ ル ベ キ コ ウ ネ シ ノ ホ ウ タイ カ フ
ほ ま れ は く ち せ じ た ら ね ん の ほ う たい か ふ

二

陸路海原埋むる旗手、

外つ國國までひびく其名、
譽は朽ちせじ當年の豊太閤。

これぞ名だたる征韓の軍

一

霰たばしる冬の夜半に、

草履抱きて主のかへり、

火影に背きて待てる僕

誰かはしるべき後年の豊太閤。

豊太閤

小松耕輔

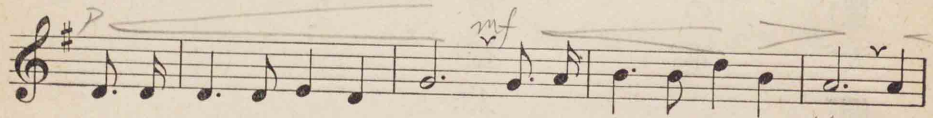
秋晴の野山



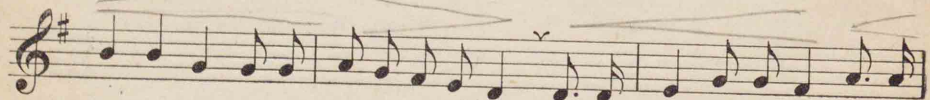
1. オ ホゾラハスミーターリウララケキヒカゲ
 2. おほぞらはすみーたーりうららけきひか



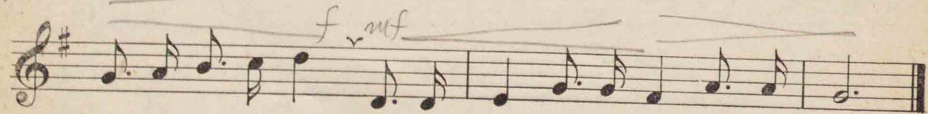
カゼサヘモシヅケーキアキバレノノミチ
 かぜさへもしづけーきあきばれのやまぢ



ミワタスノモセコガネニハエテト
 たかきのにのぼりをちこちみればみ



ピカファイナゴモフトリタリホオモクユタ
 ねごとたにごとらめておりいだししにし



ケキミノリウララケキヒカゲニ
 きかもゆるうららけきひかげに

秋晴の野山

葛原 幽

一

大空は澄みたり、うららけき日かげ、
 風さへも静けき秋晴の野路。

とびかふ蝗もふとり、
 垂穂重く豊けき實のり、

うららけき日かげに。

二

大空は澄みたり、うららけき日かげ、
 風さへも静けき秋晴の山路。

高きに登り遠近見れば、
 峯ごと谷ごと埋めて、
 織り出しし錦か燃ゆる、

うららけき日かげに。

秋の山



1. アケナス モミヂ バウス ビニ モエ テ
2. ゆふぎり ほのかに たに まを こめて



ウカベル シラク モハテ ナク トホシ
かぜのね さびしく おちばに うたふ



ムシノ ネ ナガレテ ヒト ナキ コミ チ
かりがね うちつれ とびゆく かな た



チグサモ アハレニ ミダレテ サキヌ
つきかげ さやけく ひかりを ましぬ

秋の山

麻上俊延

一 紅なすもみぢば 薄日にもえて、
うかべる白雲 はてなく遠し。
蟲の音ながれて 人なき小徑
千草もあはれに 亂れて咲きぬ。

二 夕霧ほのかに 谷間をこめて、
風の音さびしく 落葉にうたふ。
かりがねうちつれ とびゆく彼方
月影さやけく 光をましぬ。

年の暮

Allegretto

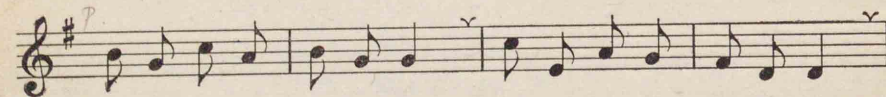
mf



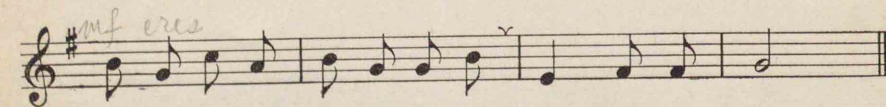
1. ノボリニ ハタニ ウキタツ ガクニ
2. をさより はやく つきひは すぎて



ニギハフ シハスノ チ マ タ
ことしも かくてぞく る る



カドニハ ハヤモ マツタチ ナラビ
をとめご われら のぞみに みちて



ハネツク オトサヘ キ コユ ル
たのしく はるをば む かへ ん

二

一

今^こ 梭^{まき} 賑^{にぎ} 幟^{はた}
樂^{がく} 乙^{おと}年^{とし}月^{つき}よ 羽^は 門^{かど}ふ 浮^う
し望^{のぞ}女^めも 日^ひり 根^ね松^{まつ}に きに
くに子^こは つ は 立^た
か 早^{はや} く立^た 師^し旗^{はた}
迎^{むか}春^{はる}満^みわく 過^かく 聞^き ち は 走^はに
をちれてぎ 音^ね やの 樂^{がく}
へばてらぞて ゆ 竝^{なら}も に
ん。 る。 さび 暮^くるる。 へ 巷^{まち}

年の暮

暮るる。

麻上俊延

冬 の 夜

Andante
dolce.

mp

1. ロ バ タ ニ ツ ド - ヒ カ タ ル ヨ - ヒ -
2. ま ど よ り み れ - ば ゆ き は や - み -

ハ ト ホ ク ヒ ビ ク ソ - リ - ノ ス ズ - ノ -
ぬ く も ま も り て ほ - く - と き よ - ら -

dim. f

ネ モ オ モ シ - ロ - ヤ
け く か が や - け - り

	二		一	
	窓		爐	
	よ		邊	
雲	り	遠	に	冬
間	見	く	語	の
雪	れ	響	る	夜
は	ば	く	宵	
洩	み	櫓	は	
り	ぬ	の		
北				
斗				

麻
上
俊
延

探 梅

c dur - f dur
Moderato
mf 小松耕輔作曲

1. スミタルーミー ソラニカガヤクーヒー
2. かをりもーほーのかにただよひーきー

ヨ ココロモーホーガラニタニマユ
て まだみぬーはーなにもこころす

p *mf*

ク ウメノハナヲサグリツツ ユ
む うめをたづねたにまゆく う

キマダーノーコレルアサキハル
ぐひすーはーつねをもらすはる

探 梅
麻 上 俊 延

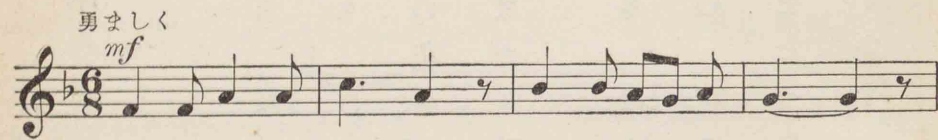
一 澄みたる みる空に 輝く陽よ、
こゝろも ほがらに 谿間行く、

二 かをりも ほのかに 漂ひきて、
まだみぬ 花にも 心澄む、

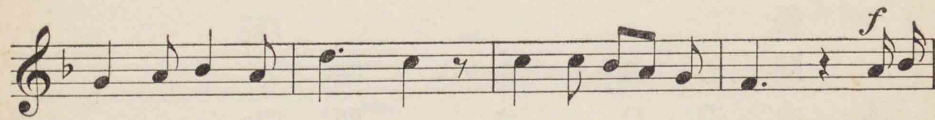
梅をたづね 谿間ゆく。
初音を もらす春。

雪まだ 残れる あさき春。
梅の花を探りつつ。

兎 が り



1. セ コ ヨ オ ヘ ヤ コ ロ ハー ヨ シ ー
 2. ヲ キ フ カ ク モ ナ ニ カー あ ら ん



ア ミ ヲ マ モ レ ワ ガ トー モ ヨ ア レ
 ち から あ は せ い ざ すー す め あ れ



ヨ ア レ ヨ アー レ ヨ ヲ ド ル ウ サー ギ オ ヘ
 よ あ れ よ あー れ よ に ぐ る う さー ぎ お へ



ヨ オ へ ヨ オ へ ヨ ヤ セ コ ノ トー モ ヨ
 よ お へ よ お へ よ ヤ あ み は ちー か し

兎 が り

小 松 耕 輔

一 勢子よ追へや、ころはよし、
 あみをまもれわがともよ。
 あれよあれよあれよ、
 おへよおへよおへよや、

二 雪ふかくもなにかあらん、
 ちからあはせいざすすめ。
 あれよあれよあれよ、
 おへよおへよおへよや、

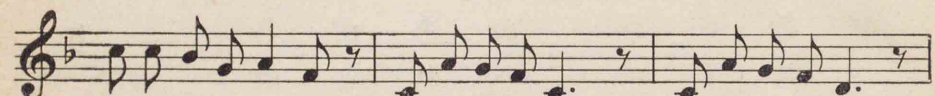
逃ぐるうさぎ、
 網はちかし。

躍るうさぎ、
 勢子の伴よ。

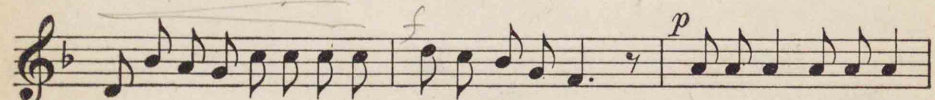
櫓 遊 び



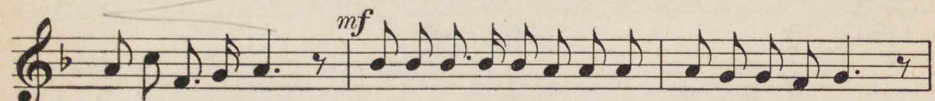
1. ユキハフル サラサラト ノニヲカニ
2. ふりしきる ゆきのなか ひとすぢに



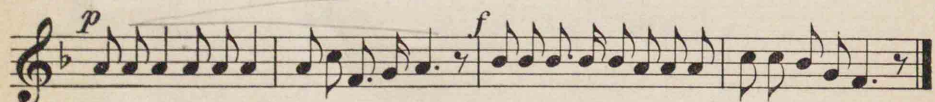
マシロクツム ユキノウヘ トブガゴト
わがそりゆく ゆきくづは なみのごと



ワレラノバソリハ カケリユク ナルヨナルヨ
うづまきみだれて ほほをうつ なるよなるよ



ウマノスズ ハオチシハヤシニ コダマシテ
らまのすず こほれるみそらに こだまして



ウタヘサケベ ワガトモヨ コエヲバアハセテ ホガラカニ
はしれそりよ かぜのごと ましろきゆきののはてまでも

櫓 遊 び

麻 上 俊 延

一 雪は降るさらさらと野に丘に。 眞白く積む雪の上、

飛ぶがごと 我等の馬櫓は 驅けり行く。

鳴るよ鳴るよ馬の鈴、 葉落ちし林にこだまして。

歌へ叫べわが友よ、 聲をば合せてほがらかに。

二 降りしきる雪のなか、ひと筋に わが櫓行く。雪くづは

波のごと、渦巻きみだれて 頬をうつ。

鳴るよ鳴るよ馬の鈴、 凍れるみ空にこだまして。

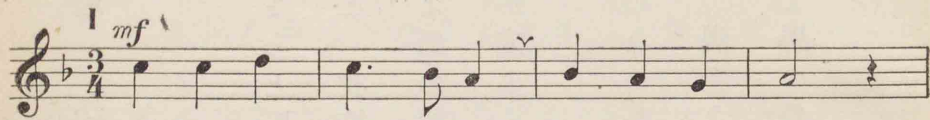
走れ櫓よ風のごと、 ま白き雪野の涯までも。

氷 す べ り

(輪 唱)

楽しく

小松耕輔作曲



1. イ ザ ヤ ト モ ニ テ フ ト リ
 2. そ ら は は れ て き は す み
 3. サ ム キ カ ゼ モ モ ノ カ ハ



イ ケ ノ コ ホ リ ス ベ ラ シ
 こ ほ り す べ り た の し や
 ト モ ニ ア ソ ブ タ ノ シ サ

氷 す べ り

一 いざや共に 手を取り、
 池の氷 すべらん。

二 空は晴れて 氣は澄み、
 氷すべり 樂しや。

三 寒き風も ものは、
 共にあそぶ 樂しさ。

小松耕輔

樂 典

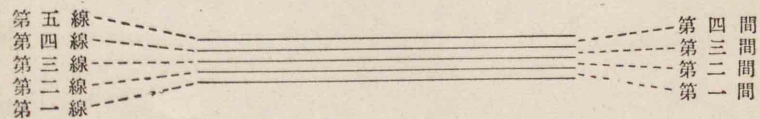
樂 譜

音樂を可視的に現はすものを樂譜と稱へる。樂譜は音樂の諸要素を出来るだけ正確に記述することを必要とする。先づ樂譜に最も必要なものは音の高低と長短とを現はす方法で、其の高低を現はすものを譜表と稱へる。

譜 表

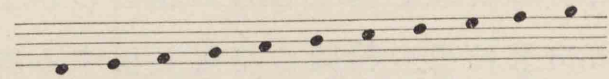
譜表は音の高低を現はすに用ひ、音の歴時の長短を現はすものではない。

譜表は五本の並行横線を用ひ、線と線間とを並用する。即ち次の如くである。



線及び線間の名稱はすべて下方より上方に數へ、線は^{ダイ}第一線、^{セン}第二線等、線間は^{ダイ}第一間、^{カン}第二間等と稱へる。即ち譜表は五線と四間とより成り、これを並用することによつて十一個の異なりたる高

度を現はすことが出来る。



これより尙ほ一層高い音や低い音を現はさんとする時には、必要に応じて五線の上又は下に短線を加へ、これを^カ加線と稱へる。

加線並にこれによつて生じた間は五線を中心として、上部のものは上方へ^カ上第一線、^{セン}上第一間等と稱へ、下部のものは下方へ^{シモ}下第一線、^{カン}下第一間等と稱へる。



以上の五線四間及び加線、並にこれによつて生じた間は凡て下方に至るに従ひ低い音を、上方に至るに従つて高い音を記載する。

音 符

音の長短を現はすものを音符と稱へる。此音符が譜表の線又は間に記載されることによつて

初めて音の長短、高低を可視的に知ることが出来る。音符は符頭と稱する、白い楕圓のみより成るものと、白又は黒の楕圓に符尾と稱する細い縦線の附いてあるものと、黒い楕圓に鉤を有する符尾の附いてあるものがある。



符尾に鉤を有する音符は連結して記載することがあるけれども其時價に變りはない。



普通用ひられる音符は次の如くである。



符頭の右側に小黑點を附したものを附點音符といふ。その點は、それが附されたる音符の音長に、その二分の一を更に附加することを意味する。通常用ひる附點音符は次の如くである。



休符

音を休むことを現はす記號を休符といひ、音符と夫々相對應する種類がある。次の如くである。



休符の右側に小黑點を附したものを附點休符といひ、音符と同じく、其の休符に更に二分の一の長さを加へたものに等しい。



音名

音には一々名稱が附されてを^{オン}つて、それを^{メイ}音名

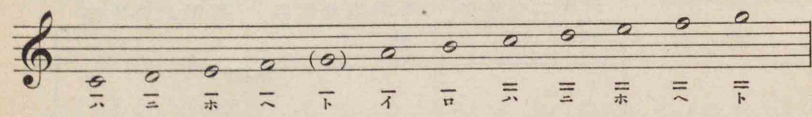
と稱へる。音名は七音を一組として、他の音はそれを繰返して用ひる。我が國に於てはイロハニホヘトの七文字をこれに當てる。而して高さの異なる同名の音は、文字の大小、或は文字の上に短線を附加することによつて區別する。

大字音	小字音	一線音	二線音
はにほへといろ	ハニホヘトイロ	ハニホヘトイロ	ハニホヘトイロ

上述の如き音名の諸音は何れも有鍵樂器の白鍵によつて表はされる音で、これを本位音といふ。

音部記號

音部記號は凡て譜表の初めにおいて音の一定の位置を示す。普通、唱歌に用ひられるのがト音記號である。



ト音記號は、第二線上の音が一線ト音であることを示してをる。他の諸音はこれに準じて知ることが出来る。

小 節

樂曲は等一な拍數を有する多くの小部分から出來てをる。此の小部分を小節と名づける。小節を區別するために、譜表を縦に貫く直線を用ひる。これを縦線と呼び、單縦線、複縦線、の二種がある。單縦線は小節を區別するだけに用ひられるが、複縦線は樂曲の中間にある場合は同じ太さの二本の縦線よりなり、樂曲の一つの段落を示すに用ひ、樂曲の最後にある場合は、二本の中の右方の一本を太く記し樂曲の終結を示すに用ふ。



拍 子

樂曲はその進行中、一定の強部と弱部とが交互に現はれる。この強弱の規則的な反復を拍子と呼ぶ。小節は主としてそれを示すためのものである。即ち小節の初めの音符は常に強部で、終りの音符は弱部である。拍子記號は數字又は記號を以て譜表の首部におかれる。普通用ひられる

拍子は次の如くである。

二分の二拍子



四分の二拍子



四分の四拍子



四分の三拍子



八分の三拍子



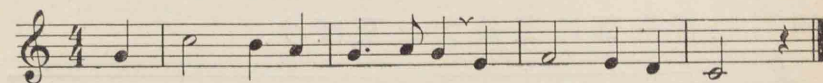
八分の六拍子



未完小節

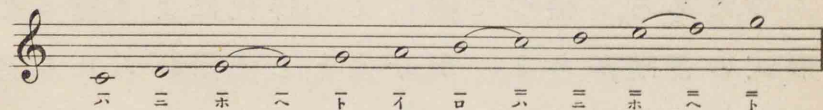
楽曲には強部から始まるものと弱部から始ま

るものがある。弱部より始まるものは最初の
小節と最終の小節とを合せて完全なる一小節を
形成する。かくの如き小節を未完小節と稱へる。



全音と半音

隣り合つてゐる各音間の距離には廣狹の二種
類がある。ホとへ及びロとハの二音間は狭くて、
これを半音と稱し、その他の二音間の距離は廣く
て、これを全音と稱へる。次に示す諸音の中、
の附されたる場處は半音で、他の二音間はすべて
全音である



嬰, 變, 本位記號

本位音を半音上げるためには嬰と稱する♯の
記號を用ひ、半音下げるためには變と稱する♭の
記號を用ひる。又是等の記號によつて變化した

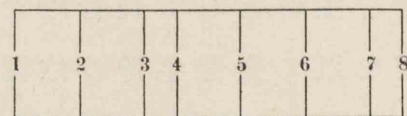
音を元の高さにかへす記號 \sharp を本位記號と稱へる。是等の記號はすべて音符の左側に附され、其音以下の同小節内の何れの位置にあるを問はず同名の音全部に其效力を及ぼす。



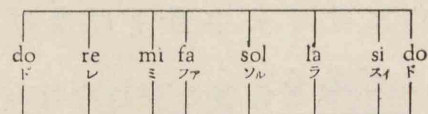
音階

音階とは高き音より低き音に、又低き音より高き音に、規則正しく連続排列された音の一系列をいふのである。従つて國により時代により種々の形式の音階がある。現今主として用ひられる音階は長音階、短音階の二種であるが、此處では長音階だけについて述べる。

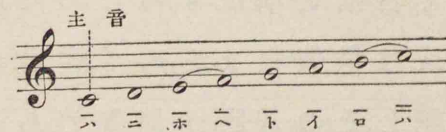
低き音より數へて第三音と第四音との間、及び第七音と第八音との間に半音を有し、他はすべて全音より成る八個音の一系列を長音階と稱へる。



音階の諸音を歌ふ場合には音名をもつてせず、に次の如き階名によつてするのが普通である。

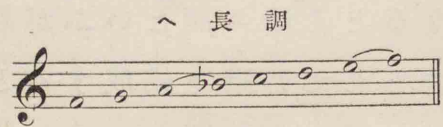
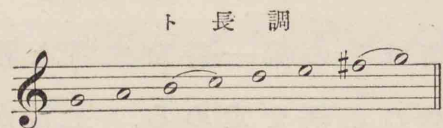


すべて音階はその第一音を主音と稱し、これによつて其音階の名稱を定める。主音がハなるときはハ調、ニなるときはニ調といふが如きである。いまハを主音として音階を構成すると次の如きものが出来る。



この音階は第三音と第四音、第七音と第八音に半音を有し、他はすべて全音によつて出来てゐるから長音階の形式と一致してをる。故にこれをハ長調と稱する。

ハ以外の音を主音として長音階を構成するには、すべて嬰變を以て全音半音の位置を長音階の形式に一致するやうにしなければならぬ。たとへばトを主音として長音階を構成する時は、ヘを半音上げなければならず、ヘを主音として長音階を構成する時にはロを半音下げなければならぬ。即ち次の如くである。



以上の如く音階を構成するために用ひた嬰變記號は、一つ或は數個をまとめて、譜表の初め、音部記號の次に記し、その音階が何調であるかを知らしめる。これを調記號と稱へる。此場合に用ひられた嬰變記號は樂曲全體の同名の音に其效力を及ぼすものである。故にその曲の途中に於て本位音に復せしめようとする場合には、その音に

本位記號を附さなければならぬ。

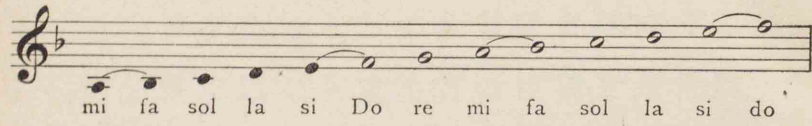


ハ長調以外の長調と其階名

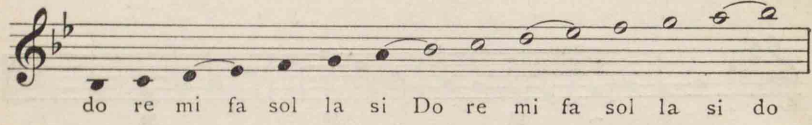
ハ長調以外の長調は、嬰種、變種とも各七種づつあるが、次には各三種づつを上げることとする。



~ 長 調



變 口 長 調



變 小 長 調



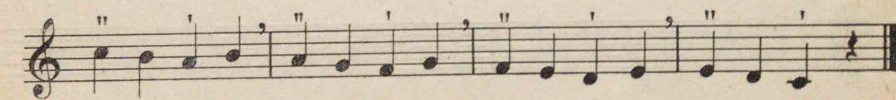
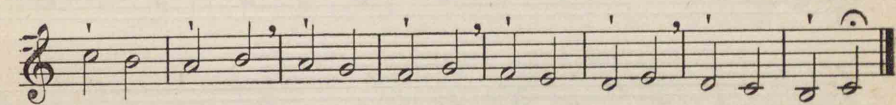
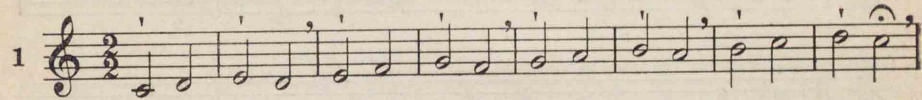
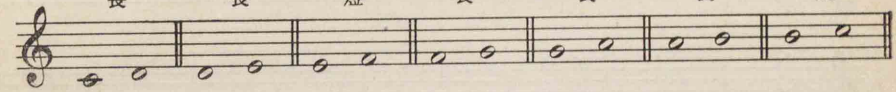
音 程 練 習

長 音 階



二 度 音 程

長 長 短 長 長 長 短



5

6

7

三 度 音 程

長 短 短 長 長 短 短

8

9

10

11

12

13

四度音程

完全 完全 完全 增 完全 完全 完全

14

15

16

17

$\text{♩} = 64$

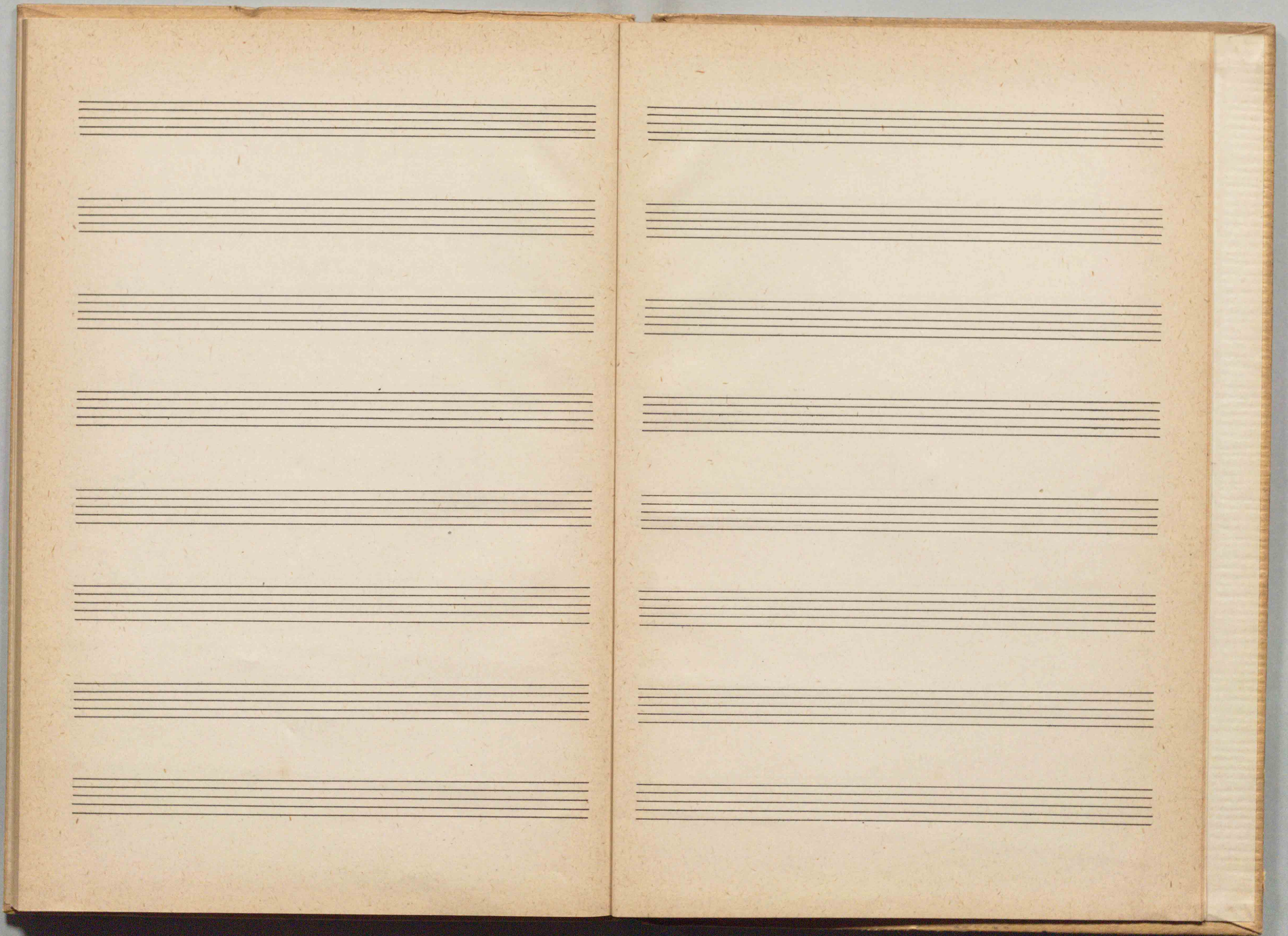
アヤ=カシ=キスメラギノー アヤ=タフトシ
 アヤ=カシコキスメラギノー ミコトイマヌ=
 スメラギノー アヤ=タフトクカシコクモ
 カシコイテー アヤ=タフトキスメラギノー
 クダシタマールオホニコト コレゾメデタキ
 オホニゴコロニ コレゾメラダ
 ヒモトノークニラシヘノモトサナ
 ヒモトノヒトノラシヘノカダミナル
molto rit
 コタヘスツラン

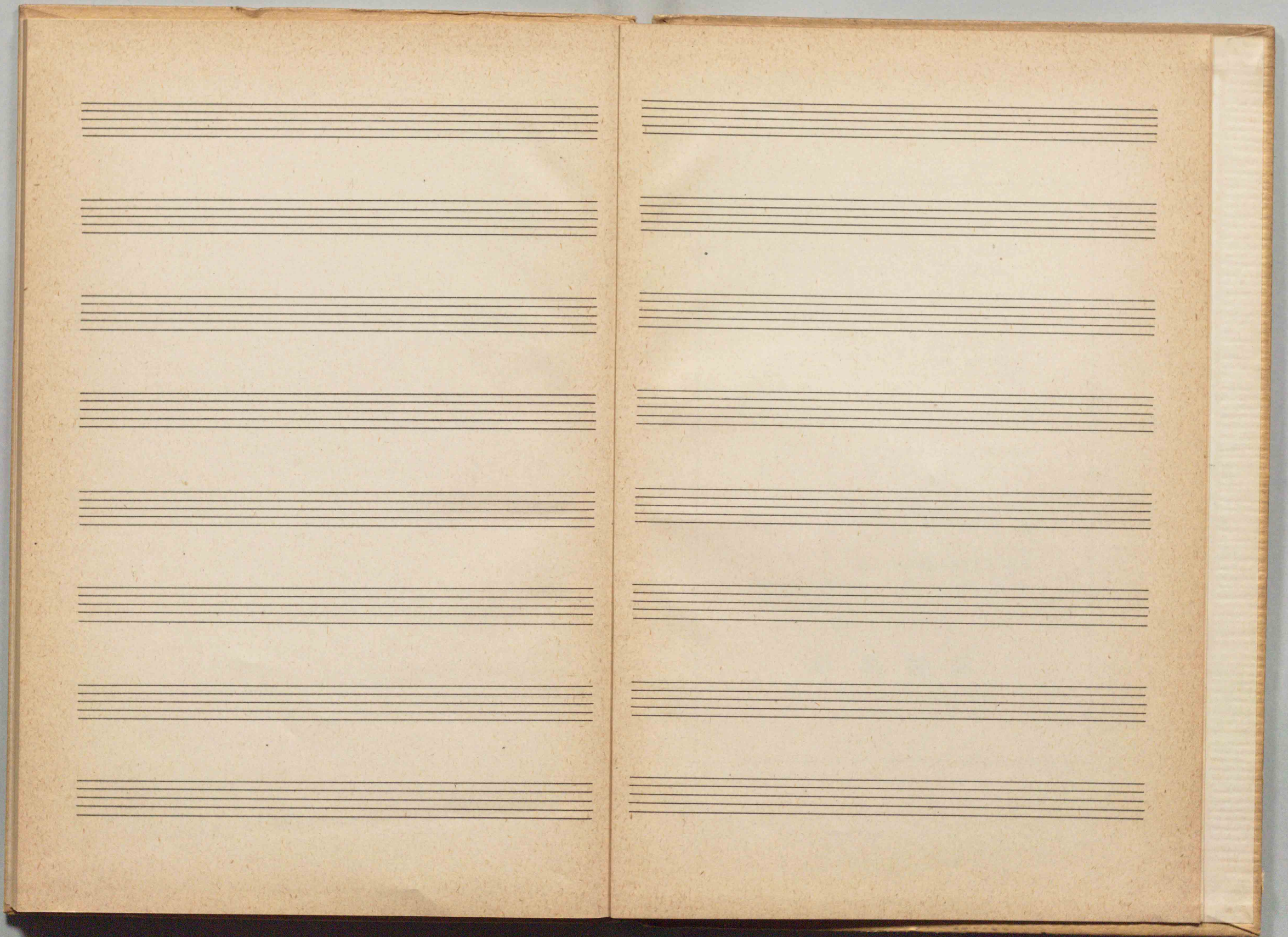
Handwritten musical score on the left page of an open notebook. The score is written on six staves, each with a treble clef and a key signature of two sharps (F# and C#). The time signature is common time (C). The music is accompanied by Japanese lyrics written below each staff. Dynamics markings include *mf* (mezzo-forte) and *f* (forte). The lyrics are:

うはぐはぐと ちよなまらぬやち-ニカ
 まさるに-るそら-のけちて-るふ
 ゲロフ-ハ キリヒエローメ-オクサ
 1のね-は ゆめが-あ-てあき
 1カハシルク=ホヒテユタ カナルハル
 のひはかせにど-もないうわ やかにへか
 ノテハヒス ワレラ ワカシ ワレラ ワカシ ア
 にいりきつ われら わかた 漢かえ しりき
 コカシ-ト ノソ イトイダキ アスヒセ
 しく-に にせ ほくせも
 いかヒテユカカ 4
 じりずす-るむ

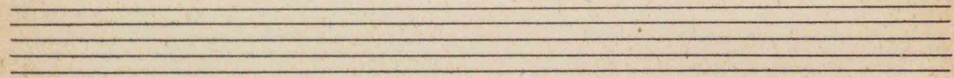
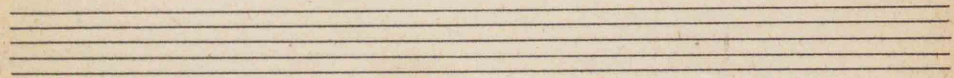
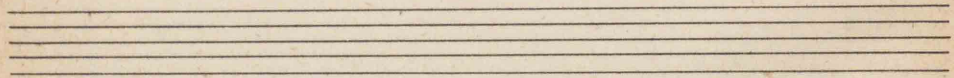
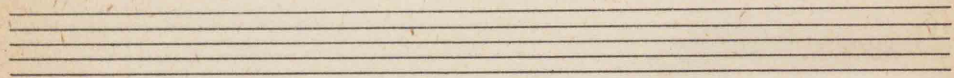
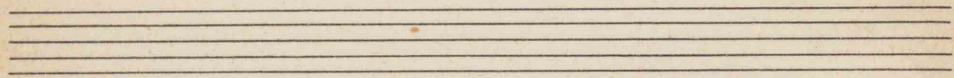
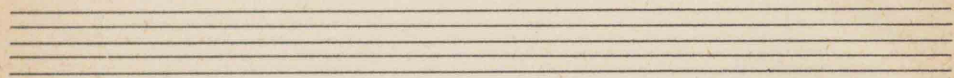
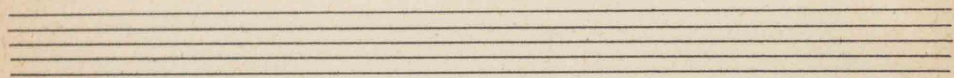
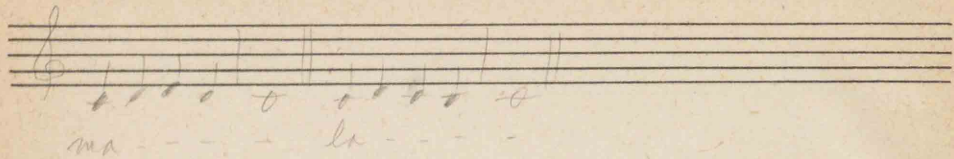
秋の花の小屋より
 名を声しげく御ききう
 澄みききう月つたに

Handwritten musical score on the right page of an open notebook. The page contains six empty musical staves, each consisting of five horizontal lines, with no notes or other markings.





b



昭和十一年十月一日 印刷
 昭和十一年十月五日 發行
 昭和十二年三月廿五日 訂正再版印刷
 昭和十二年四月一日 訂正再版發行

著作権所有 ~~~~~ 女子音楽教本	定	卷一 三十八錢
		卷二 四十二錢
		卷三 三十九錢
		卷四 四十八錢
	價	卷五 五十三錢

著 者 小 松 耕 輔

發 行 者 東京市神田區駿河臺三丁目一番地
 目 黒 甚

印 刷 者 東京市神田區錦町三丁目十一番地
 白 井 赫 太 郎

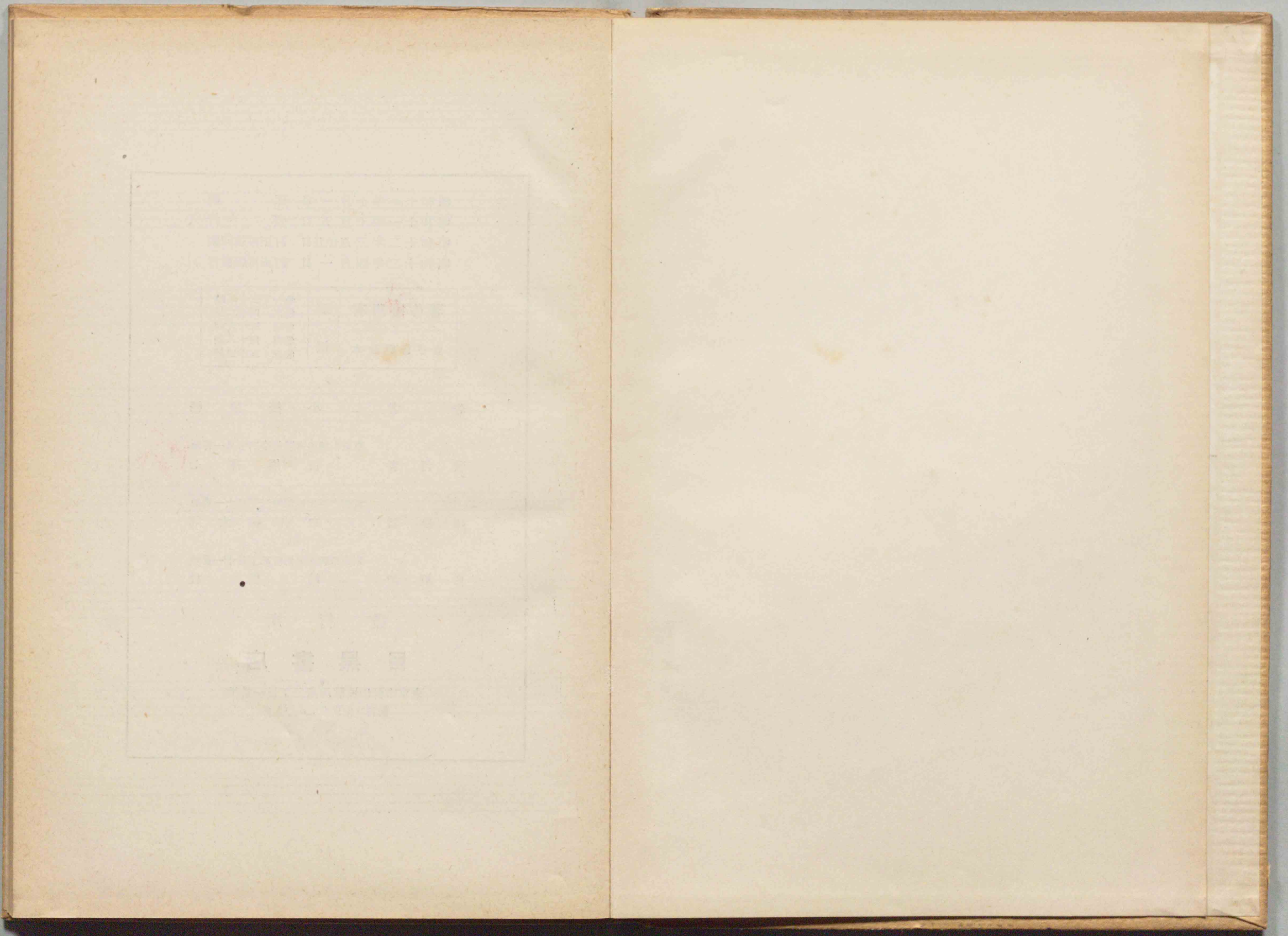
印 刷 所 東京市神田區錦町三丁目十一番地
 精 興 社

發 行 所

目 黒 書 店

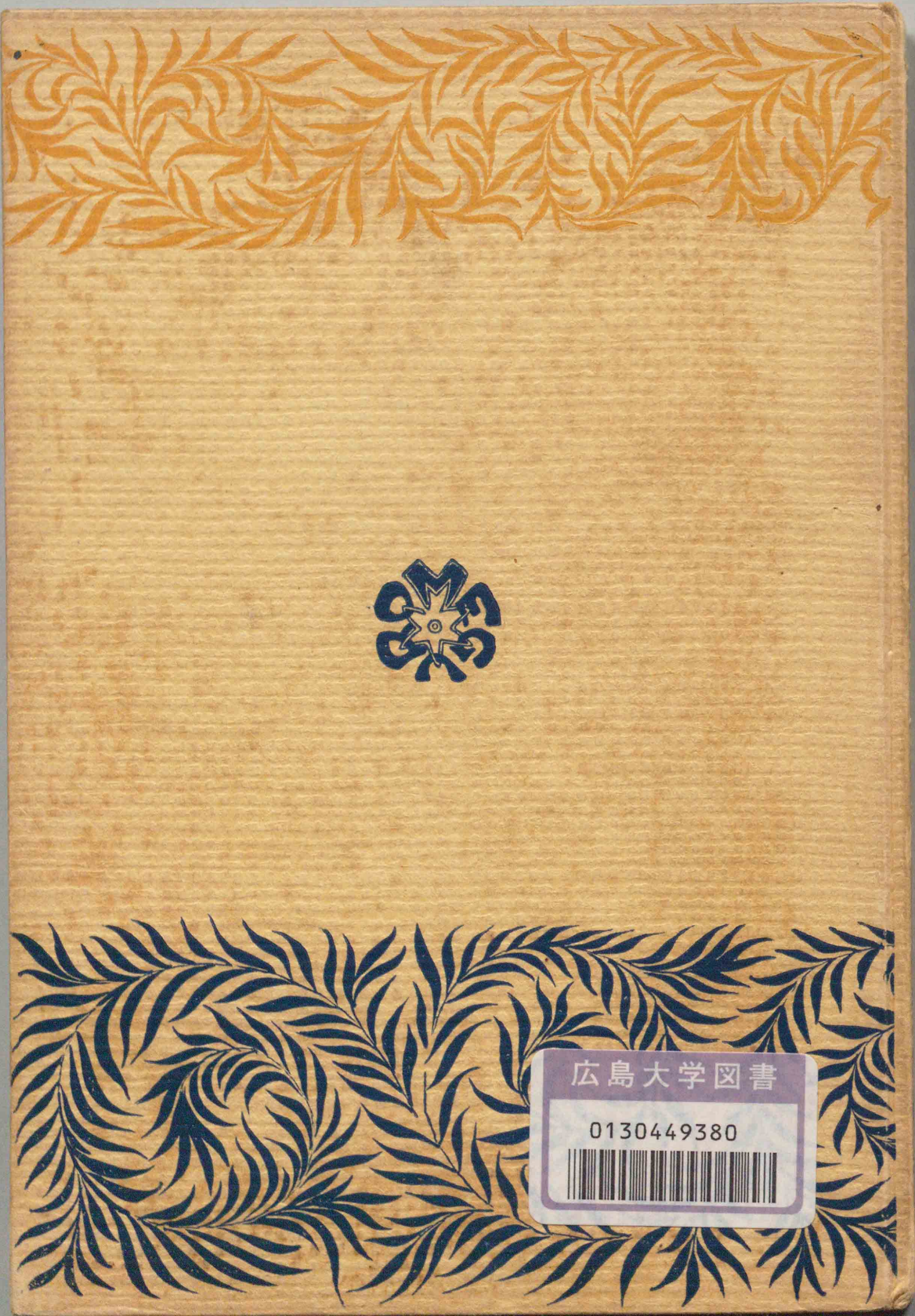
東京市神田區駿河臺三丁目一番地
 振替口座東京二八〇九番

1979.9.27



体
一

19



広島大学図書

0130449380

